

1回限りの手技で、
長期間の抗凝固薬の服用ができない
非弁膜症性心房細動の患者さんの
脳卒中リスクを低減

監修医師：

国立循環器病研究センター心臓血管内科 部長

草野 研吾 先生

仙台厚生病院 心臓血管センター循環器内科 医長

松本 崇 先生



WATCHMAN™

左心耳閉鎖システム

医師による説明用



WATCHMANの効果

WATCHMANによって長期間の抗凝固薬の服用ができない非弁膜症性心房細動の患者さんの脳卒中リスク低減が期待できます。ワルファリンなどの抗凝固薬とは異なり、WATCHMANは心臓内に永久留置をするデバイスであり、脳卒中の原因となる血栓を形成することが多い左心耳(LAA: Left Atrial Appendage)を閉鎖します。臨床試験ではWATCHMANの留置後45日で92%、1年で99%の患者さんがワルファリン服用を中止できました^[1]。つまり、ワルファリンなどの抗凝固薬の長期使用による出血リスクを低減できました。

臨床試験では、WATCHMAN留置後

45日で92%、1年で99%の
患者さんが、ワルファリン服用を
中止できました^[1]。



WATCHMAN™

1回限りの手技で長期間の抗凝固薬の服用ができない非弁膜症性心房細動の患者さんの脳卒中リスクの効果的な低減が期待できます。

WATCHMANの安全性

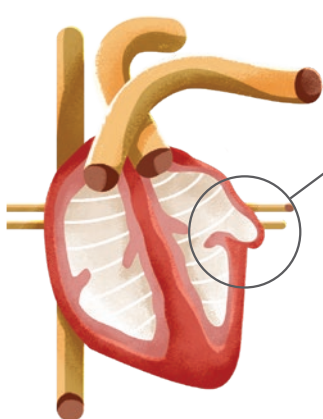
世界中で50,000例を超える患者さんにWATCHMANが留置されています。

WATCHMANは米国内で10年以上にわたって臨床試験での研究が続けられ、米国では2015年に実臨床での使用が可能になりました。

WATCHMANは
世界中で、
50,000例以上の患者さんに
留置されています。

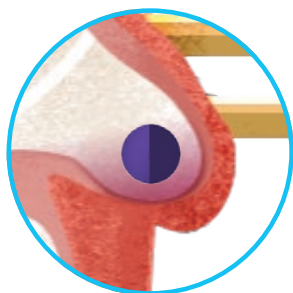
Reference: 1. Holmes DR Jr, Kar S, Price MJ, et al. Prospective randomized evaluation of the WATCHMAN Left Atrial Appendage Closure device in patients with atrial fibrillation versus long-term warfarin therapy: the PREVAIL trial. J Am Coll Cardiol. 2014;64(1):1-12.

WATCHMANの働き



左心耳
(LAA)

WATCHMANは心臓の左心耳(LAA)と呼ばれる部分に留置されます。



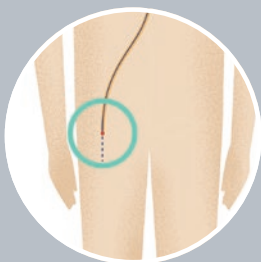
脳卒中を発生させると言われる心臓由来の血栓の90%が、左心耳(LAA)で形成されます^[2]。



WATCHMANは左心耳(LAA)を永久的に閉鎖し、血栓を移動させません。

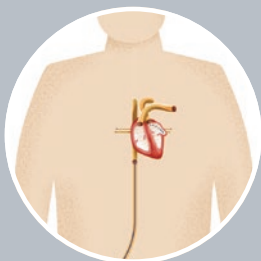
WATCHMAN留置手技

WATCHMANは500円硬貨ほどのサイズであり、開心術をする必要がありません。



1.

WATCHMANを留置するには、脚の付け根に小さい切り込みを入れて細い管(カテーテル)を挿入します。



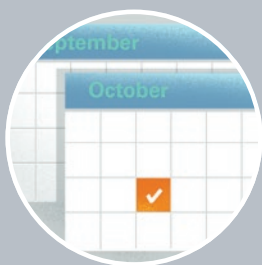
2.

カテーテルを通してWATCHMANを左心耳(LAA)に誘導します。



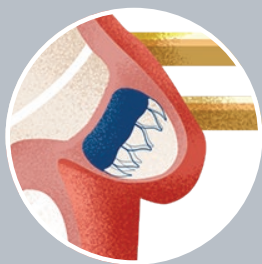
3.

手技は全身麻酔下で行われ、約1時間を要します。WATCHMANを留置した患者さんは一般的に手技の翌日から歩行が可能です。



4.

手技後、左心耳(LAA)が閉鎖されるまでワルファリンを服用します。通常は手技後から約45日間服用します。



5.

この期間に、WATCHMANを覆うように内皮化が進んで、左心耳が閉鎖します。

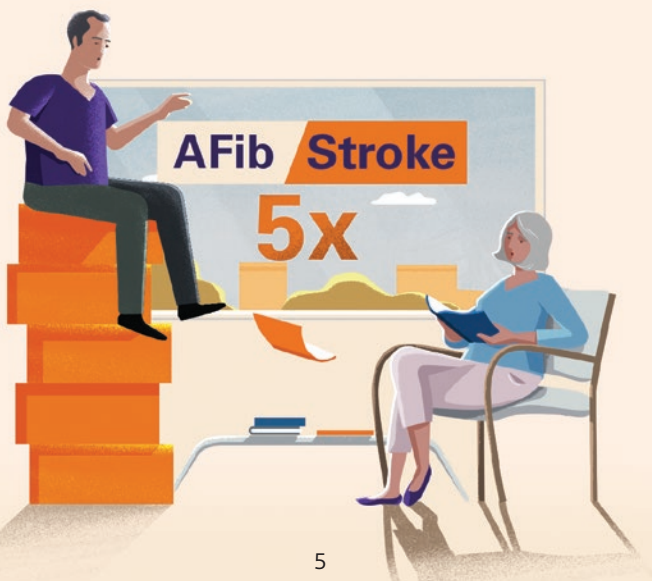
Reference: 2. Blackshear JL, Odell JA. Appendage obliteration to reduce stroke in cardiac surgical patients with atrial fibrillation. Ann Thorac Surg. 1996;61:755-759.

心房細動と脳卒中リスク

心房細動によって脳卒中リスクが高くなります。実際、心房細動がある人は、心拍が規則正しい人の5倍多く、脳卒中を発症しやすいことがわかっています。

心房細動によって心拍が不規則になり、心臓内の血流がよどみます。そうすると、血液が滞留して血栓が形成されることがあり、その血栓が心臓から出ていき、脳の血管を閉鎖すると脳卒中になります。

**心房細動がある人は、
心拍が規則正しい人の5倍多く
脳卒中を発症しやすいことが
わかっています。**



WATCHMANはあなたに適している

以下の質問への回答が「はい」の場合、
WATCHMANが適している可能性があります。

- 非弁膜症性心房細動がありますか？

- 心房細動に対して、
担当医が抗凝固薬の服用を勧めていますか？

- ワルファリンを服用できるものの、
下記の理由のいずれかのために長期抗凝固薬の
代替療法が必要ですか？
 - 抗凝固薬服用期間中の重篤な出血歴がある
 - 現在、重篤な出血リスクがある状態である

ますか？

WATCHMANが適さない患者さんの例を
以下に記載します。

- ✓ ワルファリン、アスピリンまたは
チエノピリジン系薬剤を服用できない

- ✓ 心臓カテーテル手技が実施できない、
またはすべきでない

- ✓ ナイチノール(ニッケル・チタン合金)に
アレルギーがある、または過敏症である

- ✓ 左心耳(LAA)のサイズが
WATCHMANに適合しない

- ✓ 心房細動以外の疾患のために、
抗凝固薬を服用している

ここに挙げた条件に該当する場合、担当医に相談してください。



WATCHMANについて
もっと知りたい場合は、
www.laac.jp にアクセスしてください。



ここで提供されるすべての情報は皆様への情報提供を意図しており、医学的なアドバイスや診断に使用されるべきものではありません。
もし健康状態に関して何らかの不安があれば、医師にご相談ください。

販売名：WATCHMAN左心耳閉鎖システム
医療機器承認番号：23100BZX00049000

**Boston
Scientific**
Advancing science for life™

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社
本社 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス
www.bostonscientific.jp

© 2019 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.
All trademarks are the property of their respective owners.

1903-00004-A-2 / PSST20190225-0195